

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 27150 :

後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発（経済産業省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 8 日（水） 18:05～18:25
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 共用第 3 特別会議室
- 3 聴取者：本庶議員、奥村議員、相澤議員
外部専門家 8 名（うち若手 3 名）
- 4 説明者：経済産業省 荒木 由季子 生物化学産業課長
船橋 憲生 生物化学産業課長補佐
新階 央 生物化学産業課研究官
東大先端科学技術センター 油谷 浩幸 教授

5 施策概要

「遺伝子の後天的な変異（エピゲノム）」を標的としたがんの診断及び新薬開発に必要な基盤を構築するため、がんの特異的なエピゲノムを特定する高感度な解析技術や情報処理技術を開発し、その実証を行う。開発した技術については、診断装置として実用化を目指す。

6 質疑応答模様

【本庶議員】

出口、つまり成果目標はリード化合物の発見？

【経産省】

はい、最低 5 個は発見する、ということ。そのためのノウハウを蓄積して、得られたエピゲノム情報については、国内の企業に開示する。

【本庶議員】

文科省との連携が重要。文科省の説明では、ヘッドクォーター（HQ）を置くということであったが、そこでの研究者レベルでの連携がないといけませんが、そこへの参画などの形はどうなっているのか？

【経産省】

NEDO のプロジェクトの場合、通常、研究推進委員会を設置し、推進委員として外部の先生方に数名入っていただくことになっている。文科省側の先生に、NEDO プロジェクトの推進委員に入っていただく、あるいは逆に、NEDO の推進委員が文科省プロジェクトの推進委員をやるという、相互乗り入れをやる予定で

ある。

【奥村議員】

始まったばかりのプロジェクトであるが、平成 23 年度予算額が減っている。どういう判断があったのか、また具体的に何を減らしたのか？

【経産省】

非常に厳しい予算の中で、削れるところは削って、研究の中身を絞り込んでいる。設備などについては、まだ具体的な話があるわけではないが、文科省が持っている設備の活用などを図りながら、効率化している。

【経産省】

昨年まではがん以外のものも対象にしていたが、今年を対象をがんに絞りこんだ、ということ。

【外部専門家】

ドッキングシミュレーションは、非常に面白いと思う。これで実際に 200 万個やっているが、そのうちフィットしたものが 200 個くらいあったのか？

【経産省】

200 個のうち、実際にアッセイをして、活性が認められたのが 8 個である。

【外部専門家】

8 個というのは、実際にウェットの実験をやって、結合するのか？アフィニティはどれくらいあるのか？ドッキングシミュレーションの結果が、もし本当であれば、こういうのこそ売れるのではないか？

【経産省】

ビーズを使う、というのが単刀直入でいいかと思うが、化合物を *in vitro* のスクリーニングによって非常に効率的にマチュレーションしていく、と言う意味で、創薬のプロセスを加速していくことができると思う。

【外部専門家】

予算額はこれで十分か？

【経産省】

この 1000 倍くらいのものを返せるのではないかと考えている。

以上